

バンディングかわら版（第5号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）をつけた野鳥を放鳥し、のちに同じ鳥が再発見（回収）されることで、各個体の移動を調べ、その生態を明らかにする調査です。

世界各国で行われており、最も歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では1924年に開始されました。現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）の協力により実施されています。



野鳥につける足環。足環をつけることを「標識」する、その個体が再発見されることを「回収」と言います。

注）この調査は、野鳥を捕獲するための法的な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。

標識調査からどんなことがわかるの？

ハクチョウ類2種は移動傾向が異なっている

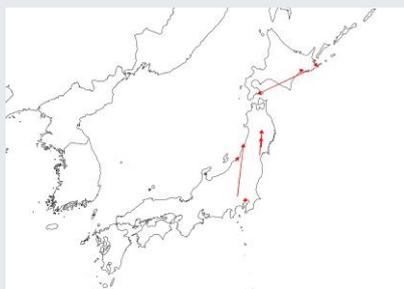
オオハクチョウとコハクチョウは冬になると広く日本に渡来する冬鳥の代表種です。人々の目を楽しませてくれる一方で両種は鳥インフルエンザウイルスを運んでいる可能性があります。そのため、両種が国内でどのように移動しているかを知ることは重要です。



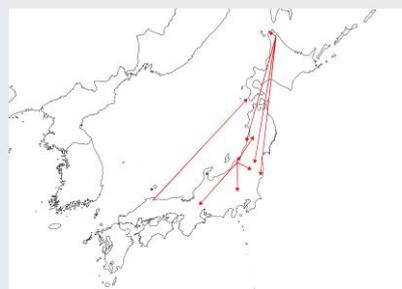
コハクチョウ（手前）とオオハクチョウ（後方）

（写真提供：仲村昇）

標識調査から両種の移動傾向を見ることができます。データを用いて1シーズン内（同一冬内）の移動を調べてみました。



オオハクチョウの放鳥地と回収地



コハクチョウの放鳥地と回収地

1961-2019年のデータによるとオオハクチョウ（13羽）は平均107km（中央値 61km）移動し、コハクチョウ（11羽）は平均408km（中央値 197km）移動していました。両種は移動距離が大きく異なっていました（ウェルチのt検定, $t=-2.7$, $df=11.9$, $p<0.05$ ）。

高病原性鳥インフルエンザウイルス陽性の情報などがあった場合は、それが**どちらの種であったか**によって監視強化する範囲を考慮することも**効率的**と考えられます。

より詳しく知りたい方は令和3年度調査報告書 p.34-36の本調査結果をご覧ください。
(<https://www.biodic.go.jp/banding/report.html>)

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
山階鳥類研究所 鳥類標識センター
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342
E-mail: BMRC@yamashina.or.jp

どんな鳥に何羽くらい足環をつけているの？

2020年に足環をつけて放鳥された鳥の総数は274種143,977羽（前年より17,070羽増）でした。上位3種は、アオジ（24,116羽）、オオジュリン（18,246羽）、メジロ（10,394羽）です。1961年から2020年までの累計放鳥数は、502種、約625万羽（6,252,506羽）となりました。



標識調査からどんなことがわかるの？

普段私たちが見ている野鳥は何歳ぐらいで、長生きな個体はどれくらい生きているのでしょうか。長期にわたる標識調査により、長い年月がたってからの回収記録が蓄積され、各種の生存期間の傾向が明らかになりつつあります。

右の表は、1961年から2017年の間に行われた日本の鳥類標識調査で、初放鳥の日から回収された日までの最長記録をそれぞれの種で示したものです（一部の種を抜粋）。



オオミズナギドリ
（写真提供：仲村昇）



クロコシジロウミツバメ
（写真提供：富田直樹）

標識調査における長寿（最長生存期間確認）記録は、**オオミズナギドリ**（上図）で、なんと**36年8か月**でした。この個体は初捕獲時に繁殖齢に達していたため、その時点で既に4歳以上だったとされています。したがって、最後に確認された時点で40歳以上だったと推測されます。

全体として、大型の海鳥であるミズナギドリ目やチドリ目などが長寿であることが分かりますが、比較的小型の海鳥である**クロコシジロウミツバメ**（上図）も**32年**という記録があります。

普段目にする機会が多いスズメ目の記録は、カラス類以外では5~9年ぐらいが多数ですが、**アオジ**（本頁上段）は**14年3か月**という記録があります。

標識調査により判明する鳥の年齢からは、最長生存期間以外にも、繁殖開始年齢や年齢による外観の変化、行動の違いなど多くの情報を得ることができます。

目	種	生存期間
キジ目	キジ	4年11か月
	オオハクチョウ	23年1か月
カモ目	カルガモ	11年2か月
	オナガガモ	23年0か月
ミズナギドリ目	オオミズナギドリ	36年8か月
	アホウドリ	34年3か月
	コアホウドリ	33年1か月
ペリカン目	クロコシジロウミツバメ	32年0か月
	オーストンウミツバメ	28年1か月
カツオドリ目	ダイサギ	21年6か月
	コサギ	12年5か月
カウソウ目	カワウ	17年2か月
	トビ	8年4か月
タカ目	オオタカ	18年8か月
	オウシ	17年1か月
ツル目	ナベヅル	26年9か月
	タンチョウ	19年6か月
チドリ目	キョウジョシギ	14年9か月
	ウミネコ	32年10か月
ハト目	ユリカモメ	27年1か月
	コアジサシ	21年10か月
フクロウ目	ウトウ	33年10か月
	キジバト	10年0か月
ツバメ目	フクロウ	19年0か月
	カワセミ	5年1か月
スズメ目	ハシトガラス	19年4か月
	シジュウカラ	7年11か月
アオジ	ヒヨドリ	10年4か月
	ツバメ	8年11か月
アオジ	ウグイス	9年0か月
	ムクドリ	7年7か月
アオジ	ツグミ	5年3か月
	スズメ	8年1か月
アオジ	ハクセキレイ	9年1か月
	アオジ	14年3か月

より詳しく知りたい方は、以下の論文をご覧ください。

吉安・森本・千田・仲村 (2020) 鳥類標識調査より得られた種別の生存期間一覧（1961-2017年における上位2記録について）. 山階鳥類学雑誌 52(1): 21-48.